



～ 雲龍の道を訪ねて～

雲龍山 勝興寺550年の軌跡



16 世紀の栄華を伝える鐘撞堂跡：末友地内



勝興寺が辿った道 ～ 雲龍の道 ～

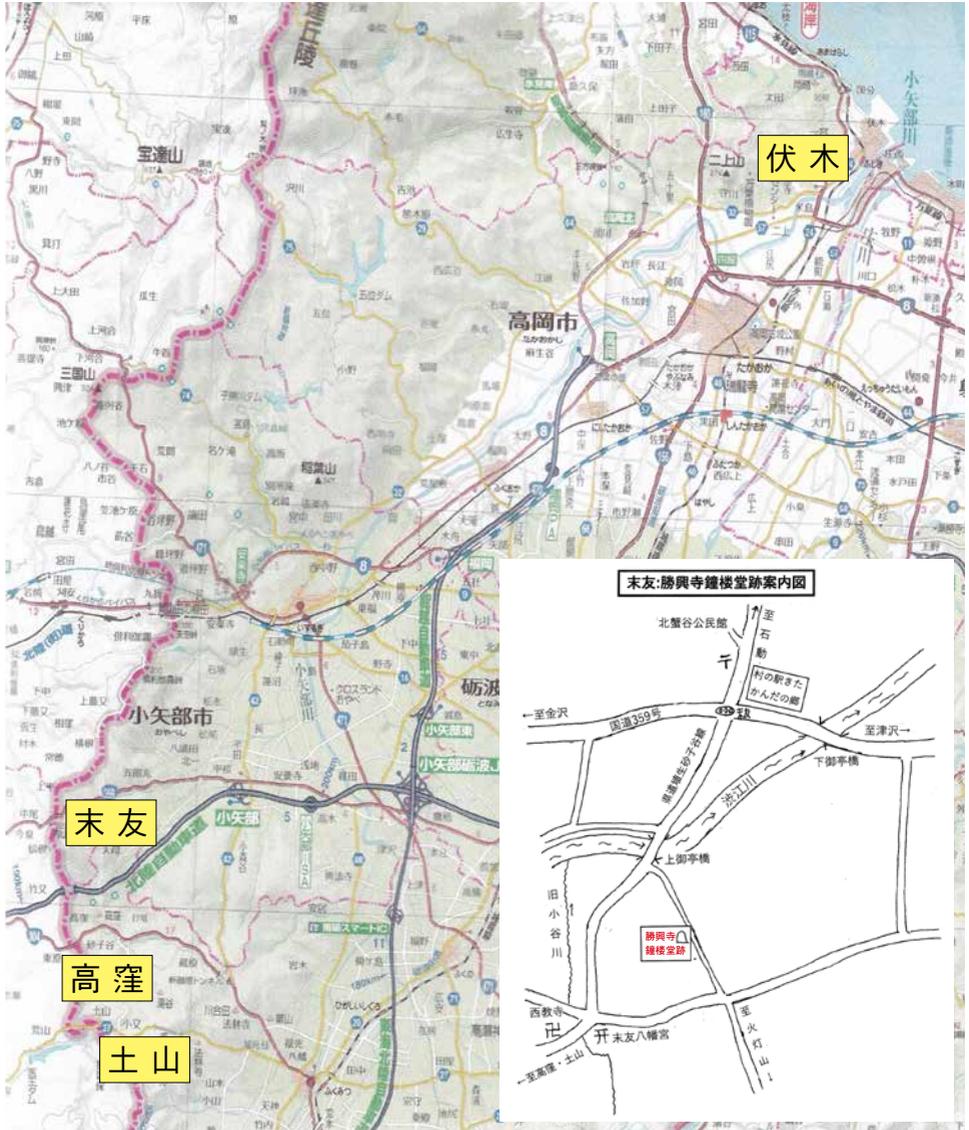
勝興寺は山号を「雲龍山」と称します。勝興寺は、土山に創建以来、龍が雲間をめぐが如く歴史の波を越えて、高木場(現高窪)、末友と場所を変え、そして現在の伏木に再建されました。

1471年 土山(現南砺市土山)に蓮如の次男蓮乗を住持として創建(諸説あり)

1494年 高木場(現南砺市高窪)に移転→1519年、国人に攻められ、焼失(諸説あり)

1519年 安養寺(現小矢部市末友)→1581年、木舟城主石黒左近に攻められ焼失

1584年 佐々成政が神保氏張を通して土地を寄進し、現高岡市伏木に再建～現在に至る



南砺市土山「土山御坊跡」



蓮如上人像



蓮如が法話を行ったと伝わる杉浦萬兵衛の庭

南砺市高窪「高木場(たかこば)御坊跡」



高木場御坊周辺の航空写真



高木場御坊跡地

小矢部市末友「安養寺御坊跡」「火灯山勝興寺墓所」



鐘楼堂跡(安養寺御坊跡)



八代実玄・九代顕栄墓所(火灯山)

高岡市伏木：現在の勝興寺



伽藍配置(勝興寺ホームページより)



本堂



唐門

石動通坊跡地（小矢部市中央町）

勝興寺が伏木へ移転したため日常的に参詣することが困難となった信徒達の志願により、慶長3年(1598年)に建立されました。独自の檀家はもたず地元の世話役が維持していましたが、老朽化により、平成24年、解体されました。今は蓮如上人像と碑文が跡地に残されています。

石動支坊(通坊)跡地に立つ蓮如上人像



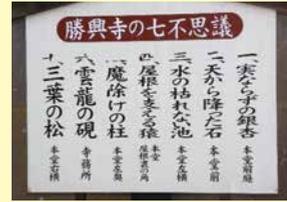
かつての石動支坊(通坊)の姿↓



山門

本堂

勝興寺に伝わる七不思議



実ならずの銀杏



屋根を支える猿
(実際は天邪鬼)

勝興寺の文芸品



洛中洛外図
(重要文化財)

勝興寺の仏事



デカ蠟燭の御萬座
法要 (1/15.16)

国宝指定と勝興寺



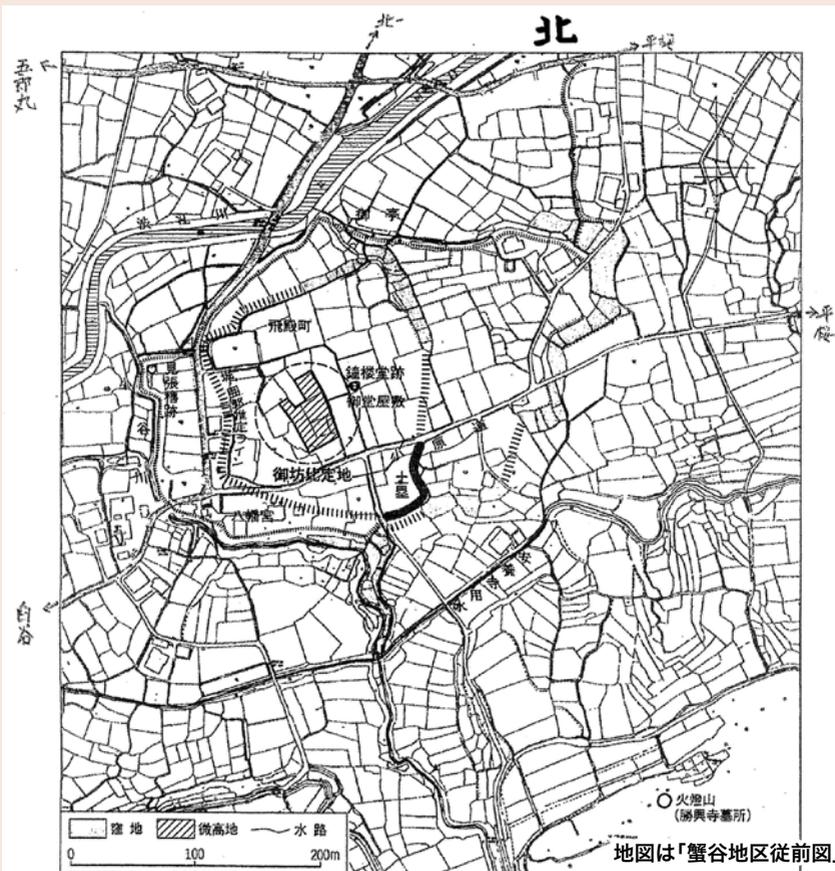
写真は勝興寺ホームページより

平成の大修理と国宝指定

末友から移転後、順次整備された建造物は16棟に及びます。平成10年(1998年)から23年間かけて行われた平成の大修理によって往時の壮麗な伽藍が蘇り、令和4年(2022年)、「本堂」「大広間・式台」が国宝に指定され、唐門、経堂等10棟が重要文化財に指定されました。

ライトアップされた本堂





■ 渋江川の急峻な河岸段丘、小谷川の深い谷を利した自然の要害 勝興寺

平成15年(2003年)、京都大学教授の天野太郎氏は、土地改良事業が施工される前の地図に勝興寺の配置を重ね、上記の図を作成されています。北側を流れる渋江川右岸側の河岸段丘は急峻なうえに高さ5～6mの落差があり、防御壁の役割を果たしていたと考えられ、また、南から西にかけて境内地を囲むように流れる小谷川は深い谷を刻んでおり、自然の掘り割りを形成していたことが窺えます。「越中勝興寺由緒抜書」には、「初の土山・高木場は山中にて参詣の手寄悪敷に付、同郡安養寺村と申所へ御引越御座候」と記述されていますが、なぜ、移転先として末友を選んだのかについては不明です。時代背景を考慮すると、山裾に下りて陸路の便を活用したほうが平野部に勢力を広げていくうえで都合がよいこと、また、戦乱の世を生き抜くうえで、自然を活かした要害の地であることが寺の城塞化に適していたことが大きな要因であったものと推測されます。また、土山、高木場、末友の各坊は共に渋江川に近い場所に立地していますが、末友に隣接する「北一」は以前「北市」と称し渋江川の舟運で栄えていたこと等からすると、渋江川の舟運を利用できる利点に着目した可能性も考えられるところです。



昭和46年版小矢部市史掲載

■ 境内面積4万㎡、寺内町家等3千軒、寺領8万石を誇った勝興寺

上図は、末友の郷土史家 長田清作氏が昭和36年(1961年)に行った聞き取り調査と教育委員会の現地調査をもとに安養寺御坊の配置を図式化したものです。

安養寺(現:末友)に移転した後の勝興寺は、多くの僧兵を有し、井波の瑞泉寺と並び越中一向宗の一大拠点となり、面積4万㎡、寺領8万石に及びました。下川崎の農学者・歴史家の宮永正運は天明6年(1786年)に著した「越の下草」の中で「城郭を構えて蟹谷郷二十九ヶ村を領し、邑を安養寺と称して寺院益繁茂し、青侍・町家を合して三千軒計有し」と記しています。

■ 末友に今も残る勝興寺の遺称・史跡

また、長田清作氏の調査資料には、「御堂屋敷」「飛殿町」「御亭」「大門跡」「御堀跡」「太鼓堂跡」「鐘楼堂跡」「見張り櫓跡」等の遺称・史跡が残っていると記されており、今も末友には「見張り櫓の跡」と市指定文化財となっている「鐘楼堂跡」が残っています。また、末友では「寺家町」や土塀が訛った「どんべ」等の名称が使われており、渋江川には「上御亭橋」「下御亭橋」等が架かっています。鐘楼堂跡は、地元の末友長寿会が毎年草刈りを行うなど、大切に維持されています。

小矢部市文化財指定書（抜粋）

現在、末友に残っている安養寺御坊時代の鐘楼跡は、昭和44年5月22日付けで小矢部市指定文化財となっています。指定理由は下記のとおりです。

指定理由

勝興寺は文明3年(1471年)、蓮如上人の次男 蓮乗が土山御坊(福光町土山)を開いたことに始まる。明応3年(1494年)に高木場(福光町高窪)、永正16年(1519年)に末友へと移転した。当時、雲龍山勝興寺安養寺御坊と称し、北国の本山同格に待遇され、砺波郡に62ヶ寺、射水郡に116ヶ寺、合計259ヶ寺の触下と称する与力寺があり、多数の門信徒を有し、大名に匹敵する勢力を誇っていた。天正9年(1581年)、住職 顕幸が織田信長との石山合戦(大阪)に出陣した際、不意をつかれて木舟城主 石黒左近に攻められ、堂塔伽藍は焼失してしまった。

天正12年(1584年)、富山城主 佐々成政が守山城主 神保氏張をとおして現在の伏木古国府の地を寄進し、再興された。

勝興寺の寺号の由来

「勝興寺由緒略記」によれば、承久の変の後、幕府によって佐渡へ流刑となった順徳上皇が親鸞聖人に教えを求めたところ、上皇が歡喜して聖人を崇敬し、早速一寺を建立し「殊勝誓願興行教寺」と寺号を授けたのが勝興寺の起源とされています。順徳上皇の第3皇子 彦成親王が親鸞の弟子となり、善空坊信念と名を改め、開基となりました。以後、約250年5代にわたって続いていましたが、戦乱の中で次第に門徒も離散し廃絶の危機に瀕するに至りました。蓮如上人が土山に滞在していた時、勝興寺の者と言う者3人が訪れ、夢の中に勝興寺のご本尊が現れ「早く越中の国 土山へ遷座せねばならぬ」と告げられたと語り、ご本尊を蓮如に捧げたところ、蓮如上人は「その事を我久しく待っていた」と答え、土山御坊を勝興寺と銘じ、次男蓮乗を住職と定めた旨が記述されています。なお、別説として、佐渡の門徒達が本山に再興を願い出たため、本山で詮議した結果、永正14年(1517年)、寺号相続が命じられたとの説もあります。



小原道跡とされる末友：西教寺横の坂道（横を流れる小谷川の崖が急峻なため、もっと下流側を通ったとする説もあります）

勝興寺の境内地を横断していた「小原道」

小原道は、小矢部市浅地の小矢部川近くの「川除地蔵」を起点とし、浅地神社(林家)、平田神社を経て、末友(安養寺御坊)に至り、更に臼谷八幡宮の後ろを経て、松根城を越え、終点の吉原(金沢市森本)へと続きました。古くから荷役の道として庶民に利用され、また、軍事的にも重要な交通路でした。小原道の通る安養寺へ移転したことは、その後の権勢拡大にとって格好の地の利を得た推察されます。江戸時代の歴史家宮永正運は、「越の下草」で「末友村の入口に古松双樹ありて路を挟む。是、勝興寺惣門の跡なり」という。今、小原道の往来なり」と記しています。

勝興寺の移転経過

【勝興寺の始まり：土山御坊(南砺市土山)】

勝興寺は土山から始まりました。蓮如の叔母で加賀国河北郡二俣の本泉寺住職代だった勝如尼が、本泉寺の出先道場として土山御坊を創設し、蓮如の次男蓮乗を本泉寺と土山御坊を兼帯する住持にしたのが始まりとされています。その時期は、文明3年(1471年)とされていますが、もう少し早かったとする説もあります。

なお、土山御坊は、地元の豪族 杉浦萬兵衛が屋敷を提供して開設されたとされ、今はその屋敷跡に石楠花等が植えられ、公園として住民に親しまれています。

4月には「土山御坊蓮如忌」が営まれ「ちょんがれ踊り」が奉納されています。

【高木場御坊(南砺市高窪)へ移転】

通説では、土山御坊は交通の便が良い地を求め、明応3年(1494年)、高木場へ移転したとされています。(なお、移転時期を文明17年(1485年)とする説もあります)

【安養寺御坊(小矢部市末友)へ移転】

永正16年(1519年)、高木場御坊が、守護方勢と門徒一揆勢との戦いで炎上したため、当時の住職実玄は、同じ蟹谷庄内の安養寺村(現末友)に移転しました。安養寺御坊での63年間は、勝興寺が栄華を誇った時代でした。

しかし、天正9年(1581年)、住職の顕幸が石山合戦に参戦中の留守を木舟城主石黒左近が奇襲し、勝興寺は城下共に焼失しました。



波江川河岸段丘の高台に残る鐘楼堂跡

【現在地(高岡市伏木)へ移転】

天正12年(1584年)、佐々成政が守山城主神保氏張を介して、越中国古国府城の地の寄進を勝興寺に申し出、ここに勝興寺は末友の地を離れ伏木へと移転しました。



本堂



鼓堂



中庭 奥書院

【住職の系譜】

[勝興寺：佐渡時代] 善空坊信念(開基)→信興(2代)→了信(3代)→信浄(4代)→信源(5代)

[土山御坊以降] 蓮乗(勝興寺6代)→蓮誓(7代)→実玄(8代)→顕栄(9代)→顕幸(10代)→顕称(11代)

准栄(12代)→准教(13代)→良昌(14代)…中略…法暢(18代)…中略…照慎(27代)